

2021年
秋号 (通巻No.298)

ナンバー ゼロ



目次

- P2 ごえん楽市のあゆみ
- P3 つながるマルシェ
ビブス
- P4 連載コラム、告知

特集

初回開催から38年目
市民活動交流イベント「ごえん楽市2021」

2021年は

静かな会場展示

×

動画配信

×

オンラインイベント

で開催



3
ページ

つながる
マルシェ

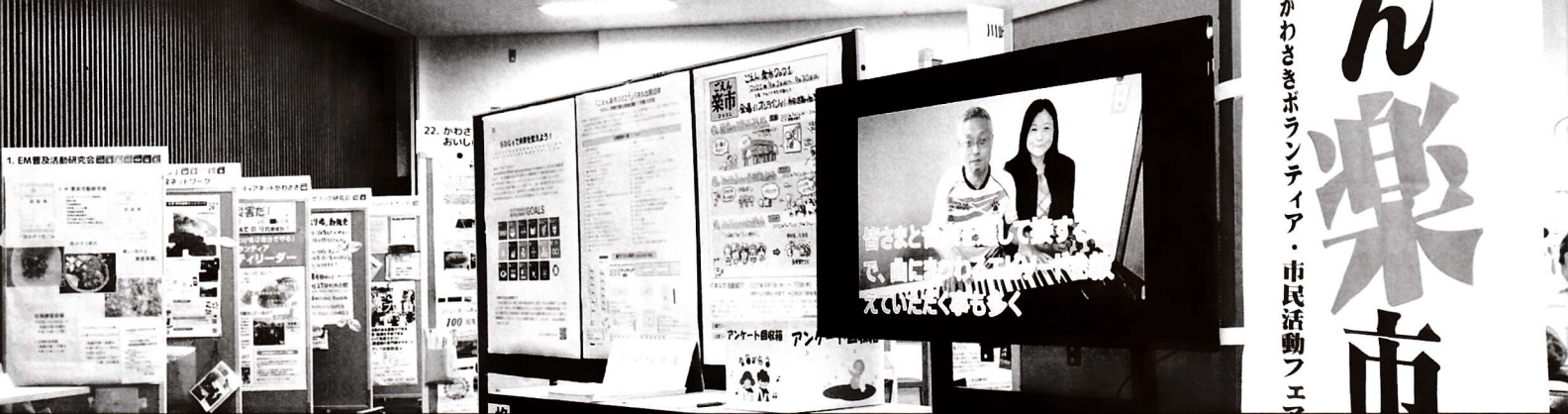


3
ページ

ビブス 特集

災害時や公共の場での活動に。
ビブスの基本知識





ごえん楽市 2021

開催期間:9.1~9.30

川崎市の市民団体ほか56の取組みを発信

ごえん楽市のあゆみ

川崎市内で初めての、市民活動団体が集うイベントとして「ボランティア交流集会」が開催されたのは1983年です。その後、同じ趣旨のイベントとして、「ボランティア活動研究集会」や「かわさきボランティア・市民活動フェア」などの名称で引き継がれ、2013年度から「ごえん楽市」という愛称となりました。当センターが現在の施設に拠点を移してからは、毎年80以上の団体が出展し、1500人以上が来場する大きなイベントとして定着していましたが、新型コロナウイルスの拡大により、2020年度は初めて中止となりました。

今年の「ごえん楽市」

そして今年度、密集を避けるために、多くの人が一室に集うイベントではなく、展示を中心にして開催。9月の1か月間、センター内フリースペースを囲む46面のパネルが、訪れる人を静かに出迎えました。各パネル上部にSDGs目標との結びつきを示すことで、団体の活動が目指す分野が理解しやすく、まとまり感のある展示に。企業3社と川崎市も展示に参加しました。また、期間中、23団体の動画をYouTubeで公開し、場内サイネージでも映し続けました。さらに特別企画として、川崎で活躍する5人とオンライン上で直接話すことが出来る「Zoom交流会」を9月7日夜に開催、19人が参加しました(表紙写真)。

これからの開催

新型コロナウイルスの流行以降は、物理的な交流の場は制限が続ぎ、表現の方法や「つながりかた」が大きく変化しています。しかしながら、人と人との関係を軸にコミュニティが形成されているという礎に変わりはありません。今後も「ごえん楽市」は、時代と歩調を合わせ、また今回のような特殊な状況にも対応しながら、川崎の市民団体と市民の「つながりや交流」を絶やすことなく促し、多くの方々に情報を発信するため進化しつづけます。(福森)

広がる! 動画配信



サイネージ画面で映し続けた各団体の動画。意匠を凝らしコンパクトにまとめられた映像で活動を知ることが出来ます。センターでは2020年度以降の様々な活動自粛や行動制限の下、団体のオンライン活用のサポートに力を注ぎました。動画作成・編集や、Zoomなどのツール利用をセミナーなどでバックアップ。昨年度よりはじまった「動画で2分間アピール」を含めてYouTubeチャンネルで公開中。



(右)パネルには、全年代に向けて各団体の取組みとパンフレットなどを掲示、小学生も訪れました。(左)特別企画(Zoom)の登壇者は、岩川舞さん(さいわいソーシャルデザインセンター)、大澤洋子さん(てらこみーる)、小野さくらさん(まごころキッチンプロジェクト)、大坂亮志さん(こすぎの大学)、太田修嗣さん(認定NPO法人くるみー来未)。



開催日 9.12(日) グランツリー武蔵小杉
(隣接商業施設ピロティ/屋根付外スペース)

「ごえん楽市」期間中、多くの買い物客が訪れる場での初開催。
6団体がワークショップ・販売で市民の共感と応援の輪を広げました！



つながるマルシェ

団体と市民の「つながり」と
共感と応援の「ひろがり」の場



買って
応援！
ありがとう！



つながる
マルシェ

開催応援サポート：
NEC 玉川プロボノ倶楽部
バルーンアート製作：
朝隈 健太郎さん

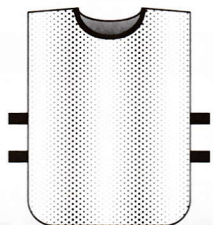
ビブスで活動円滑化 [災害時や公共の場での活動に。] ～ビブスの基本知識～

両手をふさがず役割や所属を一目で伝える「ビブス」。災害時には現場の混乱を調整し、多人数の誘導に大きな効果を発揮します。東日本大震災で一気に認知度が高まり急速に浸透。様々なボランティア活動で幅広く利用され、今では種類や色も豊富に。着用したことはあるけれど...「いざビブスを注文したい」となったとき知っておきたいポイントを、数少ないビブス専門店『ビブス.jp』の平賀智行さんに伺いました。

ビブスの形や種類



①「通常」
頭からかぶるベスト型。
幼児サイズから特大まで4サイズあり低価格で納期が早い。



②「フリーサイズ」
両脇のゴムやベルトでサイズ調整可能、体形を選ばない。



③「ファスナー開閉」
前開きで腕を上げずに楽に着脱でき、肩の痛みが気になる世代にも好評。

素材と色は？

一般的なソフトメッシュポリエステル生地(18色)
高機能な吸湿速乾生地(22色)
丈夫なハードメッシュポリエステル生地(2色)

プリントの種類は？

- ①シルクスクリーン印刷(13色から1色選択)
文字やマークをハッキリ見せ、剥がれにくい。
- ②昇華プリント(フルカラー)
白いビブスに、イラスト・写真など鮮やかに転写。



スポーツアスリートでもあり、
ビブスの知識が豊富

取材協力 平賀・智行さん

(株式会社ビブスドットジーピー取締役)

POINT

ソフトメッシュは軽く柔らかく小さく畳み持ち運べます。脇ゴムでサイズ調整できるものは着る人が決まっていない時に便利です。ファスナータイプは着脱が楽な点が人気です

POINT

ソフトメッシュ素材でも4～5年は充分耐久します。高機能素材のビブスは悪天候時や災害現場などで洗濯もままならない...といった状況に効果的でした。ハードタイプは破れにくく、アクティブな活動向きです

POINT

他に、A4の紙を差し込める透明ポケットや夜間の活動の安全を助ける反射シートなども。リブ(襟・袖ぐりの補強布)の色も22色あり、組み合わせでオリジナリティや視認性を向上できますよ

同社はスポーツイベント分野の需要を見込み2006年にビブス専門部門として独立。早々に海外工場やルートを整備していたことで、2011年東日本大震災での国内の混乱時でも緊急大量需要に応えた。受注生産だけでなく東北のボランティアに無償で7200枚以上のビブスを提供支援。社会活動に使用する製品の開発や改良を行い現在に至る。防災・救護・ボランティア活動分野の実績と厚い経験により、8000団体以上から採用されている。ビブスを活用中のボランティア活動写真が豊富な、わかりやすいウェブサイトbibs.jpを運営中。

価格は、注文の枚数や形状によって変わる。1枚800円+小プリント1枚あたり330円+製版1100円から製作できる。注文枚数が多いほど1枚当たりの値段が安い(例)100枚注文で1枚620円+小プリント1枚あたり170円+製版無料。(全てビブス.jpの場合の参考価格)



第3回 「株式会社 DeNA川崎ブレイブサンダース」

Corporate Social Responsibility in KAWASAKI
企業×社会貢献活動

川崎市とどろきアリーナがホームのプロバスケットボールクラブ『川崎ブレイブサンダース』。運営は株式会社DeNA川崎ブレイブサンダースだ。今回は同社の隠岐さんにお話を伺った。

地域に根付き長く愛されるクラブとして、スポーツを通じ様々な社会貢献活動を行う『川崎ブレイブサンダース』。保育園や幼稚園にバスケットゴールを寄贈し、子どもの運動能力向上に貢献する体験会プログラムも定期開催している。また、ハーフタイムなどの時間を利用した「KAWASAKI LIGHT UP STAGE」は、コロナ禍で「場」を失ったアーティスト達への、パフォーマンスの機会提供だ。地元ゆかりの『STUDIO S.W.A.G.』がヒップホップダンスで会場を盛り上げるなど好評で、来シーズンも実施予定。

2021年3月の試合開催と合わせたイベント「&ONE days」では、来場者がSDGs17全ての目標に挑戦。『みんな電力』協力の自転車発電体験、家庭で使った食用油の回収、地産の食材を使った「川崎丼」の販売などを行い、多くのファンが参加した。「バスケの試合を見て、社会課題にも



貢献できた!」との声も。やはりスポーツの力と選手の発信力はすごい。グッズ販売の売り上げの一部は「かわさきこども食堂ネットワーク」に寄付された。

「この1年、SDGsの取組みをしてきたことで驚くほど輪が広がった。今後も率先して行政や地域のさまざまなグループの方々と、巻き込み、巻き込まれながら輪を広げていきたい。活動を通じて、結果的にブレイブサンダースを知り、試合やスクールに興味を持つ、そういう循環をつくりたい。それが企業としての地域での持続可能性にもつながっていく」と、隠岐さんは力強く語ってくれた。

「これからも皆さんと一緒に、楽しく、チャレンジしていきたい」という『川崎ブレイブサンダース』から目が離せない。



第5,6回 パワーアップセミナー「社会調査」

①10/16土 ②11/13土 13:30~16:00

受講料 ①②各¥1,000 会場 かわさき市民活動センター・会議室

定員 15人 → 詳細はHPをご覧ください

ごえんカフェ2021 交流と出会いがうまれる!

11/6土 13:30~15:30

会場 かわさき市民活動センター・フリースペース

先着申込 40人/無料 → 詳細はHPをご覧ください



「こども文化センター」は、市民活動の地域拠点

小中学生だけでなく乳幼児から高齢者まで、多世代が交流する施設「こども文化センター」。子どもたちの利用が少ない午前中から放課後までと夜間の時間帯は、児童福祉関係者や地域のみなさんの活動拠点としても利用されています。団体登録して各部屋や印刷機などの設備が利用できます(予約制)。各区のこども文化センターの運営について詳しくは、財団ホームページ(QR)をご確認ください。地域の方々との交流を通して、子どもたちの健やかな成長を図ります。



新丸子こども文化センター(中原区)



※こぶんたは、当財団が管理運営するこども文化センター53施設のキャラクターです。
※わくりんは、当財団が管理運営するわくわくプラザ102施設のキャラクターです。

■ご案内 MAP



ナンバーゼロ 2021年秋号(通巻No.298)

【編集・発行】

公益財団法人かわさき市民活動センター 市民活動推進課

〒211-0004 川崎市中原区新丸子東3-1100-12

電話:044-430-5566 FAX:044-430-5577

メール:suisin@kawasaki-shiminkatsudo.or.jp

WEB:http://www2.kawasaki-shiminkatsudo.or.jp/volunt/



Facebookでも情報を発信しています。

<https://www.facebook.com/kcac.suisin/>

ポータルサイト「応援ナビかわさき」

<http://kawasaki.genki365.net/>